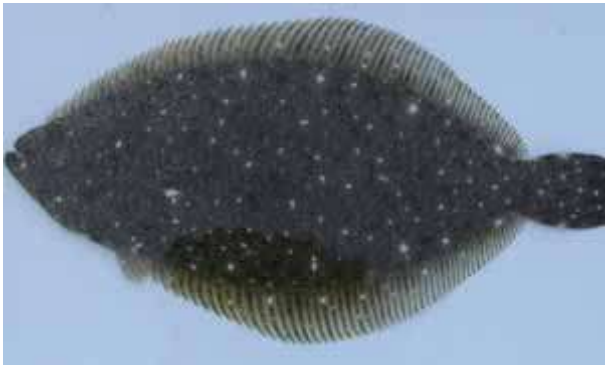


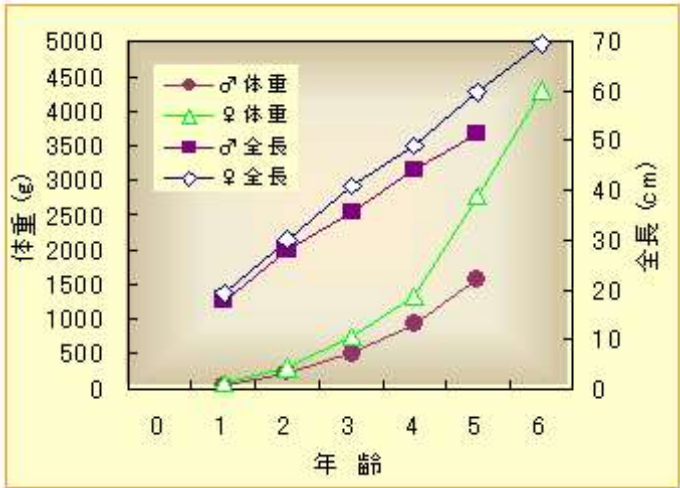
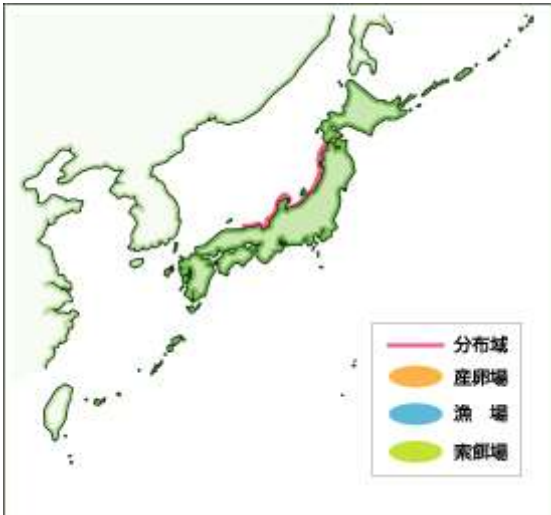
ヒラメ *Paralichthys olivaceus*

日本海北+西系群 担当：日本海区水産研究所



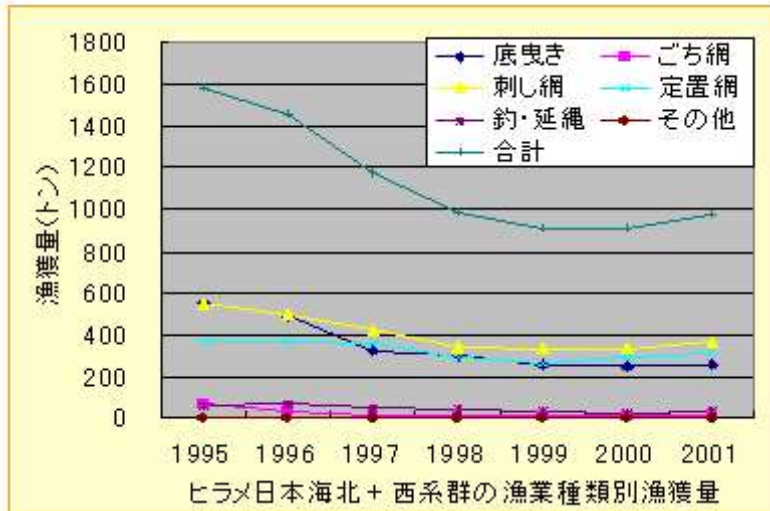
生物学特性

- 寿命： 10歳以上
- 成熟開始年齢： 雄2歳・雌3歳
- 産卵期・産卵場： 春～夏季（4～7月）、水深50m以浅
- 索餌期・索餌場： 秋～冬季（8～3月）、水深150m以浅
- 食性： 着底後はアミ類などを食べ成長し、成長に伴い魚類を主食とし、
他にはイカ類、エビ類、カニ類等を食べる
- 捕食者： 不明



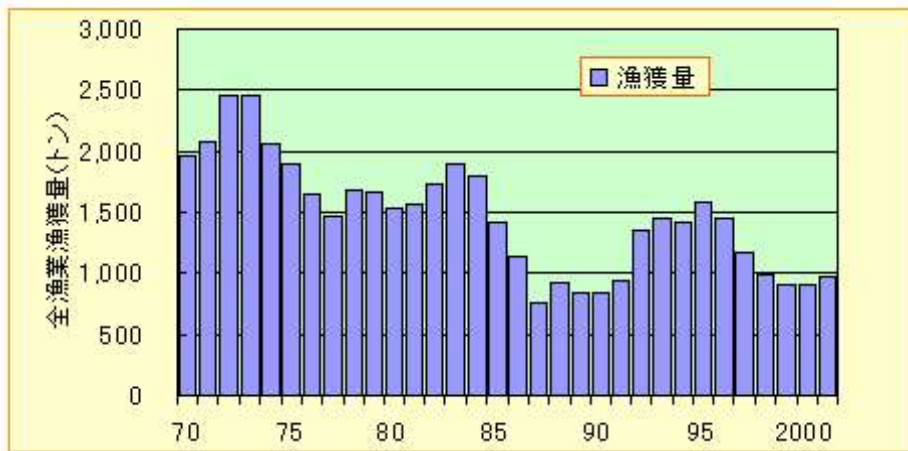
漁業の特徴

本系群に含まれる日本海側各府県（日本海北区：青森～石川、日本海西区：福井～兵庫）で広く漁獲されている。主に底びき網、刺網、定置網等の漁法により水深150m以浅の底層で漁獲される。



漁獲の動向

1970年以降の漁獲量は1984年まで1,500～2,500トン前後で推移していたが、1985年以降急速に減少し1987年には759トンと過去最低の水準まで落ち込み、1991年までは1,000トンに満たない低水準であった。1992年から再び増加傾向に転じ1995年には1,581トンに増加した。その後は再び減少し、1998年以降は900～1,000トンの低水準となっている。



資源評価法

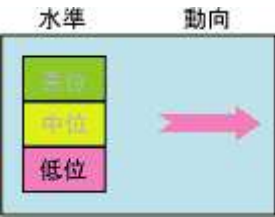
資源量推定のためのデータ収集及び解析を行っている途中であるため資源量の推定に至っていない。また、ヒラメは重要魚種のため漁獲努力量の急激な変化は考えにくいこと

から、やむを得ず漁獲量の推移から資源状態を判断した。



資源状態

漁獲量の推移から資源状態を判断した。漁獲量は1992年以降増大傾向にあったが、1995年の1,581トンピークに1996年以降減少に転じ、1997年は1,175トン、1998年は990トン、1999年は908トンと減少したが、2000年には911トン、2001年には979トンと増加した。漁獲量の動向により判断すると、資源量は低い水準に落ち込んでいる。漁獲量の4年間の経過から横ばい傾向であると判断した。



管理方策

漁獲量のトレンドから推定した資源水準が低位にあることから、資源水準の回復のために漁獲量の抑制の継続が必要であると考えられた。漁獲量の値が安定している直近4年の平均漁獲量（1998～2001年の947トン）×β（0.8）＝758トンをABC limitとした。資源水準と傾向は低水準で横ばいであること、その資源量の傾向を判断する資料が漁獲量しかないことの不安定性を考慮しβ＝0.8とした。さらにABC limitに安全率α（0.8）を掛け、ABC limit×α（0.8）＝606トンをABC targetとした。

	管理基準	A B C （トン）	漁獲割合	F 値
A B C limit	0.8 Cave4-yr	758	-	-
A B C target	0.8 ABC limit	606	-	-

資源評価のまとめ

- 漁獲量の動向より判断
- 漁獲量は1998年以降1,000トン未満の低水準

- 資源水準は低位で横ばい傾向

管理方策のまとめ

- 資源水準が低位であり、資源水準の回復のために漁獲量の抑制の継続が必要